商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2025年4月調査結果-

---------- 調査概要 ----------

○調査期間　2025 年 4 月 7 日～4 月 30 日
○調査対象　200社
○回答企業　134社
○回収率　　67.0%

※DI値（景気判断指数）について
DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。
ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。
従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。
なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）
業況・採算：（好転）－（悪化）/ 売上：（増加）－（減少）/ 仕入単価：（下落）－（上昇）
販売単価：（上昇）－（下落）/ 従業員：（不足）－（過剰）

旭川市概況

※全産業の4月の状況を見ると業況ＤＩは、前月より1.3ポイント改善の▲14.2となった。
2017年9月以来92ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3カ月の全産業における、先行き見通し業況ＤＩは▲15.7、当月と比べ1.5ﾎﾟｲﾝﾄの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2024年11月	12月	2025年1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2025年5月～2025年7月
業況	▲21.8	▲15.1	▲22.4	▲21.2	▲15.5	▲14.2	▲15.7
売上	▲8.3	▲5.5	▲9.7	▲7.6	▲3.9	3.7	1.5
採算	▲27.8	▲23.0	▲26.8	▲27.3	▲17.8	▲15.7	▲12.0
仕入単価	▲66.9	▲69.0	▲64.9	▲62.1	▲64.3	▲70.2	▲58.2
販売単価	32.3	41.2	35.9	26.5	37.2	29.1	24.6
従業員	31.6	33.3	34.3	32.6	28.7	36.6	36.5
資金繰り	▲13.5	▲11.2	▲11.9	▲13.6	▲8.6	▲8.2	▲9.7

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2024年11月	12月	2025年1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2025年5月～2025年7月
建設	▲36.3	▲23.3	▲35.5	▲34.4	▲30.0	▲29.0	▲16.1
製造	▲32.2	▲12.9	▲27.3	▲32.4	▲9.4	▲16.7	▲30.0
卸売	▲10.7	▲3.6	▲10.0	▲7.4	▲14.3	0.0	▲3.4
小売	▲15.8	▲10.6	▲27.8	▲38.9	▲25.0	▲26.3	▲31.5
サービス	▲4.6	▲27.7	▲9.1	14.3	0.0	0.0	0.0

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	・北海道開発予算が前年度並みの水準を維持でき、早期発注に努めてくれていることが大きい。トランプ関税ショックで日銀が利上げスピードを落としてくれると、住宅需要の下落に歯止めがかかる可能性があるが、もし利上げ基調維持ならば住宅業界は苦境に陥るであろう。（総合工事） ・トランプ関税の今後の動向は依然として不透明であり、混迷した状況が続いている。また、業界全体における本年度の見通しについても依然として不確実性が高く先行きは不透明な状況である。このような厳しい中でも、人材確保・賃金水準の社会的動向ならびに物価上昇への対応などの観点から、賃金増額を実施したが充分な価格転嫁には至らず業績に与える影響は極めて大きく厳しい経営状況が予想される。（設備・その他） ・建築基準法改正に伴う 4 号特例の縮小により、確認申請の手間や提出書類の増加に加え審査までの時間を要することから、施工の長期化が懸念される。大工不足が常態化しており、新卒だけでなく中途採用に積極的に取り組む方針である。（建築業）
製造業	・農作業が始まったが、人員不足の解消はできず、今月から賃金も 2 年連続で増やした。今後、価格転嫁等も含め考慮する必要がある。（食料品） ・主材料の一部がカナダ・アメリカで加工されているので、関税により価格が上がる可能性が高くなるため、更に業況が悪化していくと思われる。（印刷・出版） ・3 月・4 月東京からの受注が大幅に増加したが、まだ安定とは言いがたく先行きに不安がある。（家具・木材） ・採用面接を行い地域の人材が多く埋もれていることを知った。特に女性。安易な外国人登用をせず働き方のニーズを掴み、新卒を含め複数の人材を雇用する事ができた。（金属窯業他）
卸売業	・経費の増加は続いているためコスト削減に努めながら、利益追求をしていかなければならない。（機械鋼材） ・20～25%程度の輸入品を販売。特に母の日商材は占める割合が大きいため商社の仕入単価に注意している。（その他） ・年初からの売上・その他経営指標は冴えない状況で推移していたが、当月の業況は前年同期に比べ微増に転じる。主たる取引先の営農者は、雪解けも早く進み農作業も例年より早く、そのことから商品の購入意欲も昨年よりも若干高い。（その他）
小売業	・4 月に入り社会の動きが活発になる時期なのだが、来店客がなかなか増える兆しが見えない。季節は春物の装いだが気温変化が激しく春物商品の購買に今ひとつ繋がらない。売上が厳しい状況が続く。（衣服身回品） ・売上は単価上昇により増収しているものの、販売点数が伸びない。チラシに合わせた消費行動が顕著になっている模様。（食料品） ・働き方改革に伴う運輸・建設関係の軽油需要の低下。物価高騰によるタイヤや洗車・オイルなどメンテナンスの節約による収益性の低下。（その他） ・停止していた工場の再稼働が決まり、当月については一時的に新車販売の売上が増加する見込み。しかし、原材料の高騰による仕入れ価格上昇・ベースアップによる人件費の増加により採算は前年よりも悪化すると予想している。（自動車）
サービス業	・物価高により清掃業務へまわる金額が減少。また、倒産による解約の増加。人手不足の影響でお引き受けできない件数も増加。（理美容・クリーニング） ・イベントがない４月は観光客もほぼ来てないため、ホテルはガラガラ状態が続いている。販売単価を下げても集客できず、GW に期待したい。（ホテル・旅館） ・現場経験者や有資格者の採用が困難な状況が続く中、若手人材の定着率も低迷している。給与面の改善や働き方改革などの対策が考えられるものの、どれも短期間で成果を上げるのは容易ではない。（その他） ・トランプ関税の影響は米国への輸出が悪いため直接は無いが、為替の変動・米国景気の悪化などで資材価格の上昇・インバウンドの減少が発生すれば間接的に悪影響があるかも知れないため注視している。（その他） ・新年度を迎え、学校通学関係の人員増は見込めるものの、人的不足感から厳しさを感じている。設備投資(設備更新)を進めたいところではあるが諸物価高によりままならない。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	売上 DI0.3 ポイント改善、採算 DI5.6 ポイント悪化、仕入単価 DI4.3 ポイント悪化、販売単価 DI10.8 ポイント悪化、資金 DI2.9 ポイント悪化、従業員 DI8.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、設備・その他 15 ポイント、建築業 30 ポイント悪化、総合工事 29 ポイント改善となった。社員の育成・生産性改善(労働時間抑制)との声も寄せられている。
製造業	売上 DI7.1 ポイント改善、採算 DI1.2 ポイント悪化、仕入単価 DI4.0 ポイント悪化、販売単価 DI11.0 ポイント悪化、資金 DI12.8 ポイント改善、従業員 DI0.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 7.3 ポイント悪化となった。業種別では、金属窯業他 8 ポイント改善、印刷・出版横ばい、食料品 14 ポイント、家具・木材 21 ポイント悪化となった。納入先の減産により先行不透明との声も寄せられている。
卸売業	売上 DI21.4 ポイント改善、採算 DI17.4 ポイント改善、仕入単価 DI11.9 ポイント悪化、販売単価 DI2.1 ポイント改善、資金 DI6.9 ポイント悪化、従業員 DI13.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 14.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、繊維・衣服等、食料品 17 ポイント、機械鋼材 11 ポイント、その他 10 ポイント改善となった。人手不足との声も寄せられている。
小売業	売上 DI0.9 ポイント改善、採算 DI3.5 ポイント悪化、仕入単価 DI2.9 ポイント悪化、販売単価 DI2.7 ポイント悪化、資金 DI3.3 ポイント悪化、従業員 DI13.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 1.3 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品 100 ポイント、自動車 5 ポイント改善、食料品、その他 17 ポイント悪化となった。燃料の補助金(国の政策)停止による影響が心配との声も寄せられている。
サービス業	売上 DI6.9 ポイント改善、採算 DI4.3 ポイント改善、仕入単価 DI2.4 ポイント悪化、販売単価 DI18.8 ポイント悪化、資金 DI1.4 ポイント改善、従業員 DI20.9 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、理美容・クリーニング 50 ポイント、ホテル・旅館 40 ポイント、飲食 25 ポイント悪化、運送横ばい、その他 37 ポイント、整備業 50 ポイント改善となった。エネルギーや資材の高騰止まらず、世界情勢も安定せずインバウンドの動向も予測できないとの声も寄せられている。